

単元のゴール (Goal 単元で身に付けさせたい力)
<ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府の成立と対外関係、産業の発達と元禄文化や化政文化などの町人文化、幕府の政治の展開などについての知識を身に付けること。 交易の広がりとその影響、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、江戸幕府の成立と対外関係、産業の発達と町人文化、幕府の政治の展開などについて近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現できること。 近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現できること。

主体的な学びに向けて (Plan 計画)
<p>主体的な学びについては、生徒が学習課題を把握し、その解決への見通しをもつことが必要である。そのためには、単元等を通した学習過程の中で動機付けや方向付けを重視し、学習内容や活動に応じた振り返りの場面を設定し、生徒の表現を促すことが重要である。</p> <p>本単元では、単元の導入で単元を貫く学習課題とパフォーマンス課題、評価シートを示すことで、学習課題の解決に向けた、学習の見通しをもたせるようにした。</p>

対話的な学びに向けて (Plan 計画)
<p>対話的な学びについては、主体的に学習する態度のうち、「自らの学習を調整しようとしている側面」において行われるように単元の中での活動に工夫したい。</p> <p>本単元では、単元の導入において、近世という時代を大観させる活動を行った。その上で、小グループでの対話を通じて、生徒は自分になかった近世を見る視点や考え方に気づき、単元において重点的に学習すべきことを考えて、学習に取り組む。単元のまとめにおいても、近世のまとめとして主旨が明確になるように内容構成を考え、歴史に関わる事象についての意味や意義について、自分の考えを論理的に説明したり、他者の主張を踏まえて取り入れたりして、歴史に関わる事象についての自分の考えを再構成させる活動を行う。</p>

単元に係る生徒の実態 (Research 実態把握)
<p>単元の導入で、小学校段階の知識や理解をもとに、近世の「政治」、「国外との関わり」、「産業」、「民衆の生活」、「文化」などの特色について、ワークシートを使いレディネスを調べた。「文化」の芸能学問などはよく覚えている生徒が多かったが、一方で「民衆の生活」「産業」について理解が浅いことがわかった。また、近世という時代を大観するような学習のまとめ方を小学校ではしていないため、どんな時代かは捉えきれていない。</p> <p>この学年の生徒たちは、昨年度の歴史の授業で、古代と中世を、「政治」、「国外との関わり」、「産業」、「民衆の生活」、「文化」などの面から多面的・多角的に考察し、時代を大観する単元のまとめを行ってきた。その経験をこの近世の単元でもいかせるよう、単元の導入でパフォーマンス課題や評価シートを事前に渡してガイダンスをすることで、単元の学習に見通しをもたせ、単元の終末では時代を大観させる取り組みを行いたい。</p>

歴史的な見方・考え方を働かせること (Plan 計画)
<p>この時代における特色を、諸事象を比較したり、関連させたりして社会的な事象を捉えたりすることで、時代の転換の様子や各時代の特色を考察できるような指導の工夫が求められている。</p> <p>本単元では、社会的な事象の歴史的な見方・考え方である「社会的な事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差違などを明確にし、事象同士を因果関係などで関連付けること」を組み込んだワークシート活用する。</p>

深い学びに向けて (Plan 計画)
<p>「社会的な見方・考え方」を用いた考察や説明等の学習活動が組み込まれた、課題を追究したり解決したりする活動が不可欠である。追究の視点と、それを生かした課題(問い)の設定、諸資料等を基にした多面的・多角的な考察ができるよう単元設計することが求められる。</p> <p>本単元では「単元を貫く学習課題」を設定し、その課題を追究しながら学習を進められるよう単元計画に工夫をした。1時間ごとの振り返りを歴史的な見方・考え方を働かせて行うことで、深い学びに向かわせたい。</p>

単元計画 全 14 時間	
○本時の学習課題	◆各時間終了後の児童の姿
単元を貫く学習課題『近世とはどのような時代といえるだろう』	
①「近世とはどんな時代だといえるだろう」	◆近世という時代を小学校時代の理解をもとに個人で大観させ、その後小グループでの対話を通じて、自分になかった近世を見る視点や考え方に気づき、単元において重点的に学習すべきことを考え、学習の見通しをもっている。
②「江戸幕府はどのように全国を支配しようとしたのだろう」	◆幕府が大名を統制するとともに、その領内の政治の責任を大名に負わせたことに気付いている。
③「江戸幕府はどのように人々を支配しようとしたのだろう」	◆各身分の中で人々が職分を果たしたこと、農民が自治を行い幕府や藩の経済を支えたことに気付いている。
④「江戸幕府の対外政策はどのように変化していったのだろう」	◆17世紀初めの活発な貿易に触れるとともに、後に鎖国と呼ばれた幕府の政策に、統制の面があったことに気付いている。
⑤「江戸時代の日本は世界とどのように結ばれていたのだろう」	◆長崎や対馬などを通して、統制の中にも交易や交流が見られたことに気付いている。
⑥「江戸時代はどのような産業が発達したのだろう」	◆農林水産業や手工業の発達、産業や交通の発達から都市を中心に各地方の生活文化が生まれたことを理解している。
⑦「綱吉の政治や元禄文化にはどのような特色があったのだろう」	◆綱吉の時代の混乱を乗り越え、町人が力を持っていく中で町人文化が都市を中心に形成されていったことが理解している。
⑧「吉宗の政治改革にはどのような特色があったのだろう」	◆吉宗の改革が行われた時代背景と、その改革の結果について理解している。
⑨「打ちこわしや百姓一揆はなぜ起こり、幕府にどのような影響を与えたのだろう」(本時)	◆米価の推移を示す統計資料や、打ちこわし、百姓一揆の発生件数、飢饉の発生件数のグラフから相関関係を読み取り、打ちこわしや百姓一揆が起こった背景や、幕政への影響を理解している。
⑩「田沼意次と松平定信の政治改革にはどのような特色があるだろう」	◆幕府の政治改革について、財政の悪化や背景などを踏まえて、その改革の結果を理解している。
⑪「社会の変化の中で発展した学問や文化にはどのような特色があったらう」	◆人々の教育への関心が高まったこと、学問・芸術・芸能などの地域的な広まりから、文化の社会的な基盤が拡大したことを理解している。
⑫「国の内外からの危機に対して、江戸幕府はどのように対応したのだろう」	◆社会の変動や欧米諸国の接近とともに、幕府政治の行き詰まりがみられたことを理解している。
⑬「これまでの学習から、近世とはどんな時代であったといえるだろう」(Check 評価)	◆近世のまとめとして主旨が明確になるように内容構成を考え、歴史に関わる事象についての意味や意義について、自分の考えを論理的にまとめ、表現している。
⑭「自分の考える『近世がどんな時代であったか』ということと、周りの人の考えを比較しながら、自分の考えを深めよう」(Act 改善)	◆自分の考える「近世とは〇〇な時代」を論理的に説明したり、他者の主張を聞いたりしながら、他者の主張を踏まえて取り入れたりして、歴史に関わる事象についての自分の考えを再構成できている。

前時の概要

5代将軍綱吉の時代の浪費による財政難を立て直すべく、8代将軍吉宗が行った改革の成果について学習した。基本的には重農主義政策であるが、その背景には長崎貿易における貿易額の制限が木綿や生糸などの国産化につながったことなど、対外関係が国内産業に影響をもたらせたことに触れることで、時代背景や、国外の影響などの歴史的な見方・考え方を学んだ。

主体的・対話的で深い学びに向けて

【主体的な学び】の実現に向けて
単元を貫く課題を設定し、単元で学ぶことに見通しをもたせたい。パフォーマンス課題である時代を大観させるワークシートに取り組ませる。ワークシートは、1単位時間を終えるごとに、1枠ないし2枠ずつ埋められるような構成になっている。

【考えを引き出す工夫】
打ちこわしの発生件数の推移と米価の推移を示した統計グラフを用意し、関連性を考えさせる。

【対話的な学び】の実現に向けて
統計資料の読み取りや、複数の統計資料の関連性から、打ちこわしや百姓一揆と米価の関連性、そして背景にある飢饉の存在について、話し合いを通じて気付かせる。

【深い学び】の実現に向けて
深い学びに不可欠な歴史的な見方・考え方であるが、翻字では「時代背景」と「影響」に着目させる。本時の打ちこわしや百姓一揆の背景にあるのは米の不作である。その時代背景を、米価の推移を示したグラフから推測させ、影響として打ちこわしや百姓一揆という歴史的な事象が起こったことを、仲間や資料との対話を通じて気付かせたい。

本時の目標 打ちこわしや百姓一揆はなぜ起こり、幕府にどのような影響を与えたのだろうか

板書計画 ※プロジェクターで一時的に写す画像も含む

学習課題 「打ちこわしと百姓一揆はなぜ起こり、幕府にどのような影響を与えたのだろうか」

○打ちこわし

- ・米屋を襲撃
- ・米価が高いことに反発

○百姓一揆

- ・年貢の軽減を求めて農民が協力
- ・一揆の責任者がわからないような配慮(唐笠連判状)


○打ちこわしと一揆の関連性

- ・どちらも米価が上がったタイミング→米の不作

飢饉 主食(米)の不作により、多くの人が飢え苦しむこと

1782年 天明の大飢饉・餓死者約92万人
1833年 天保の大飢饉・餓死者約125万人
まとめの例

打ちこわしも百姓一揆も、どちらも飢饉(米の不作でも可)により起こり、今後の幕府の改革は飢饉(米の不作でも可)に対する対策を取っていくことが考えられる。




今後の展開

度重なる飢饉による米価の高騰と打ちこわしや百姓一揆の増加を受けて、飢饉対策を含んだ幕政の改革が必要なことを生徒は本時の学習で予想する。

次時は、「田沼意次による政治と寛政の改革」を通じて、幕政改革が行われた経緯(特に寛政の改革は飢饉対策の側面が大きい)やその結果を学びつつ、幕政改革の行き詰まりの中で外国船の到来という外圧が加わったことで、倒幕の動きが生まれたことを捉えさせたい。これらの時代背景の中で、近世という時代が大きく動揺していくことを、最終的には「時代を大観させる」単元のゴールにつなげていきたい。

本時の流れ (授業スタンダード) ※深谷中独自3分間：自立の時間(課題・問題の提示) 5分間：協働の時間(練り上げ・まとめ) 1分間：創造の時間(次時の予告)

目標・ねらいの提示	自分で考える活動	仲間と学び合う活動	学んだことの整理
<p>本時の学習課題である、「打ちこわしと百姓一揆はなぜ起こり、幕府にどのような影響を与えたのだろうか」という問いを設定し提示する。3分間：自立の時間(課題・問題の提示)</p> <p>※学習課題を出したのち、打ちこわしと百姓一揆とは何なのか、小学校での既習事項を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本時の学習課題 「打ちこわしと百姓一揆はなぜ起こり、幕府にどのような影響を与えたのだろうか」</p> </div> <p>※百姓一揆の様子</p> 	<p>① 打ちこわしの絵(幕末江戸市中騒動図)を見て、町人が、どこをなぜ襲っているか、既習事項を活用した見通しをもたせる。</p> <p>③ 百姓が一揆を起こした理由や、唐笠連判状から一揆の連名が円形になっている理由などを考えさせる。</p> <p><活動のねらい> 打ちこわしの様子から、襲われているのが米屋であること、人には危害を加えていないことに気付かせたい。 百姓一揆には多くの百姓が参加した理由を、米価が上昇したことから考察して気付かせたい。また、一揆の連名の形に疑問を持ってほしい。</p>	<p>② 打ちこわしの発生件数のグラフと米価の推移を示したグラフから、米価の高騰と打ちこわしの因果関係を、仲間と話し合って考えさせる。5分間：協働の時間(練り上げ)</p> <p>④ 百姓一揆の発生件数のグラフと、米価の推移を示したグラフから、米価の高騰の背景にある米の不作があることを、仲間と話し合って気づかせる。5分間：協働の時間(練り上げ)</p> <p><活動のねらい> 自然災害による農村の変化などを踏まえて、近世社会の基礎が動揺していたことに気づくことができるようにする。</p>	<p>授業の最後の5分間で、本時の学習課題「打ちこわしと百姓一揆はなぜ起こり、幕府にどのような影響を与えたのだろうか」に沿って5分間まとめの時間Q、打ちこわしと百姓一揆はなぜ起こり、その後の幕政改革にどのような影響を与えたと考えられるだろうか。</p> <p>※1870年以降、再び米価が上昇したこと(飢饉は関係ない)による人々の不満と、幕府の滅亡の関係を予想する。</p> <p>1分間：創造の時間(次時の予告)</p> <p><まとめの例> A、打ちこわしも百姓一揆も、どちらも飢饉(米の不作でも可)により起こり、今後の幕府の改革は飢饉(米の不作でも可)に対する対策を取っていくことが考えられる。</p>